

(2) 活動の様子



【草原でお宝を探そう】



【寝具の準備の確認】



【座談会】



【キャンドルのつどい】

4 成果と課題

(1) 成果

- 事業を計画する際、熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課に「対象者」「事業内容」「チラシの配布先」等について相談をさせていただいた結果、参加者のニーズに即した事業にすることができた。
- 事前打ち合わせの際、法人ボランティア及び社会教育実習生（ともに熊本大学の教育学部生）に対し、特別支援教育に係る研修を行った。また、参加者が安心して活動できるよう、ワークシート等の教材を学生とともに準備した。事前に、これらの打ち合わせを実施したことで、学生は見通しを持つことができ積極的に事業に参加することができた。
- 事業当日は、講師のサポートクリエイター松本ゆうこ氏による座談会だけでなく、個別の相談にも対応していただいたこともあり、保護者の満足度が高い結果となった。
- 各活動を分かりやすくするワークシート等を準備したことにより、参加者は見通しを持って参加し、安心して活動していた。アンケートでは、全員楽しいと回答していた。
- 保護者へのアンケートの結果、今回の事業が再度開催されれば、また参加したいと回答する方が多く、ニーズがあると感じた。

(2) 課題

- このような事業はニーズがあることが分かった。しかし、参加できる人数に限りがある。今回、参加申し込みが多く抽選となったので、人数を増やせる内容を考える必要がある。そして、事業の実施時期を春から秋の期間内ですることにより、活動の幅も広がると考える。以上の検討が必要である。
- 事業当日、指示を聞けない児童がいたため、主担当が対応を行った。今回、保護者も一緒に参加したので、職員の対応はほとんど無かったが、今後、事業の対象を子どものみにする場合、支援や指導に慣れている企画指導専門職が複数必要であると感じた。